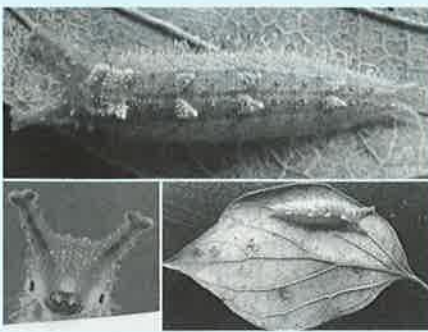


オオムラサキの越冬幼虫

(タテハチヨウ科)

2014年の夏にこの欄で、国蝶オオムラサキの成虫について記しました。新しい年を迎えた正月に、今度はオオムラサキの愛嬌のある顔の越冬幼虫を紹介します◆幼虫は食樹の榎の根もとの枯葉にとまって越冬しています。榎の幼木は鳥が実を食べて種子を運ぶため、いろいろな所に生えています。江戸時代には一里塚の目印として植えられ、大きくなった榎もありました。榎を見つけたら根元の枯



オオムラサキの越冬幼虫：顔と全体

葉を一枚ずつ裏返して見ます。写真のように幼虫は葉の裏にとまっています(榎の葉の形や葉脈の特徴も見てください)。ポイントには北側をさがすことです。南側では日が当たって冬眠が妨げられてしまうこと、また南側は乾燥しやすいためです◆オオムラサキと一緒にゴマダラチヨウの幼虫が見つかることがあります。食樹や越冬のしかたが同じなのです。しかし、公園の榎など乾燥している場所にはゴマダラチヨウしか見られないことがあります。オオムラサキは背中突起が4対ありますがゴマダラチヨウは3対です。またオオムラサキの背中には2本の太い筋があり、体形も細くて小さいのが特徴です◆近年、榎を食樹とする外来種のアカボシゴマダラもいますが、こちらは小さな榎を好み、幼虫の特徴も違います。越冬するオオムラサキやその仲間たちを見つけたら観察してみましょう。手に取ると動きますが、元に戻すと、気に入った場所で眠ります。

(荻島和美)

おごせアートミュージアム【県立越生高等学校】



2年 佐々木幸実さん  
『キャンパスの中の世界は』



3年 千田拓人さん  
『かくれんぼ』

第58回埼玉県高校美術展において、佐々木さんの作品が来年の全国高等学校総合文化祭出品候補作品に選ばれました。また、千田さんの作品が埼玉県知事賞を受賞しました。

人口&世帯

12月1日現在  
( )は前月比

総人口：12,109人  
(-14人)

男性：6,038人  
(-7人)

女性：6,071人  
(-7人)

世帯数：4,941世帯  
(-4世帯)



あとかぎ&裏表紙  
明けましておめでとございます。今年も申年。猿のように好奇心旺盛に行動して、よりよい広報紙作りに励んでいきます。今年もよろしくお願ひします。越生の秋から冬にかけては「ゆず」の季節。僕が大学生のときに食べた、とあるカフエのゆずスイーツが衝撃的に美味しくて、それを再現してみようとゆずフエアで撮影がてらゆずを購入しました。作ってみたらまあまあな出来。満足できるまで、年末年始はゆずスイーツ作りに没頭しようと思います。裏表紙はゆずフエアでゆず鍋を食べていたご家族の別の写真。食欲そそるいい匂いだ。温まったかな。【チエ】